

茨城県大子町における クラウド型校務支援システムの導入について

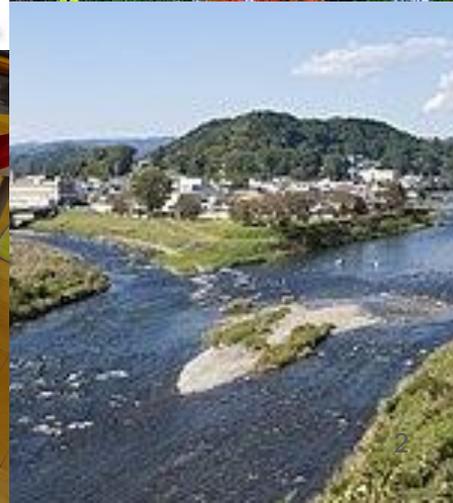
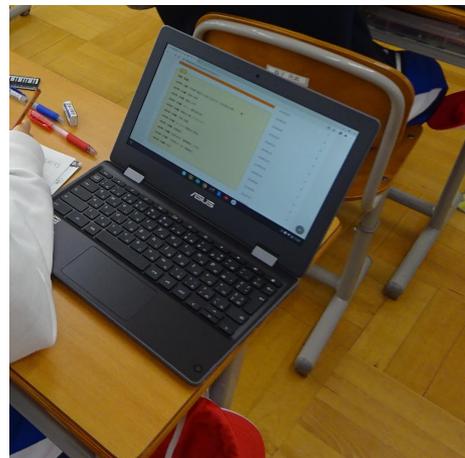
令和4年5月24日

茨城県大子町教育委員会事務局



茨城県大子町について

- ・人口 約1万6000人
- ・学校数 小学校6 / 中学校4
- ・児童生徒数 小学校475人 / 中学校307人
- ・平成30年度～ 共有Chromebookを導入開始
- ～現在 全小中学校に1人1台のChromebookを配備完了
(児童生徒＋教職員)



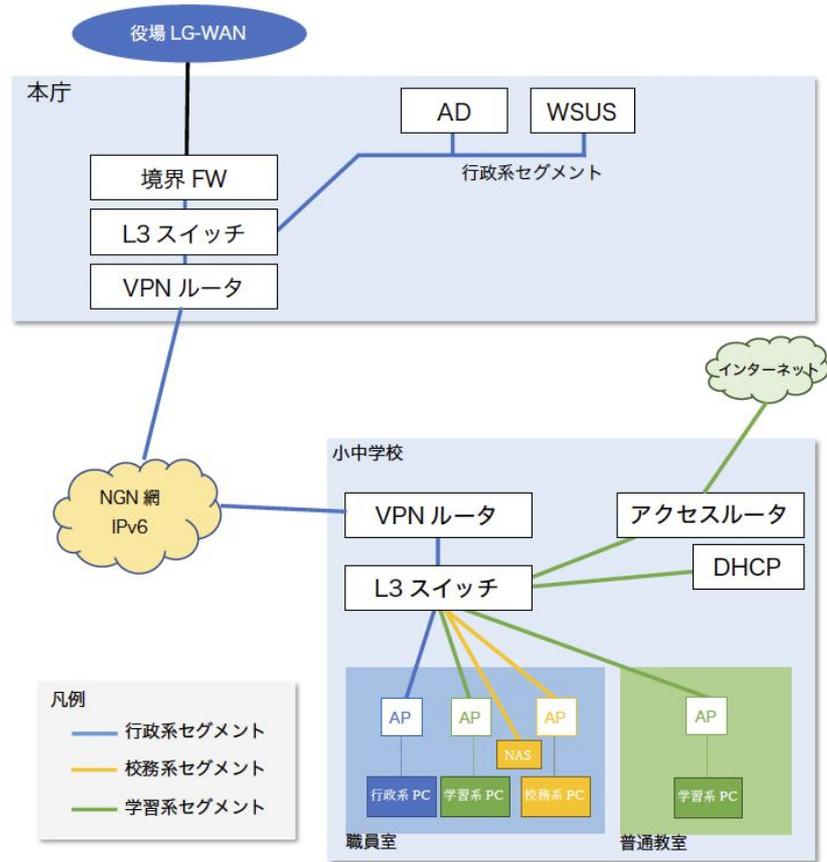
大子町教育委員会・学校のICT環境について

○ネットワーク環境

- ・教育委員会と各学校は町が整備する行政系ネットワークで接続
- ・行政系ネットワークは各学校から教育委員会（大子町庁舎内）へ集約
※文書管理と補助執行が主な用途
- ・行政系ネットワークからインターネットへの接続は不可
- ・GIGA端末からインターネットに接続するため、学校ごとにインターネット接続可能なネットワーク（学習系ネットワーク）を別途整備

○教職員が使用する端末

- ・行政系ネットワークに接続可能な端末として Windows端末を整備（学校ごとに設置するファイルサーバ（NAS）へのアクセスにも使用）
- ・学習系ネットワークに接続可能な端末として Chromebookを整備（後述のクラウド型校務支援システムへのアクセスにはこちらを使用）



GIGAスクール構想により顕在化した”校務のジレンマ”

- ・大子町では従前より Google Workspace と Chromebook による教育環境のクラウド化を推進してきた
- ・一方で**校務支援システム**は（自治体の規模や費用対効果等の課題から）**未導入**であった（特に、物理的なサーバー構築やカスタマイズ等に必要な初期費用が重荷であった）
- ・校務支援システムの導入検討にあたっては
「小規模校なので帳票類は手書きで良いのでは」
「無理して新しいシステムを入れなくても良いのでは」
という声も少なからずあった
- ・しかし Google Workspace の利用・活用が浸透し、クラウドの利便性を教職員が実感し始めた
- ・結果、学習系と比較してクラウド化が遅れている校務系の「不便さ」が徐々に課題として挙がるようになってきた

”完全クラウド型”校務支援システムの導入

- ・このたび大子町が選定した校務支援システムは、モチベーションワークス株式会社が提供する、**完全クラウド型**の統合型校務支援システム「BLEND〈ブレンド〉」
- ・児童生徒数×単価 というシンプルな料金体系
- ・物理的なサーバー構築が不要なため、初期費用がかからない
- ・各種カスタマイズ費用、運用保守費用等がすべて含まれている
- ・ブラウザ上で動くため、校務系PCでも学習系Chromebookでもインターネット接続環境さえあればどちらでも利用できる
(設定により、学校外からのアクセスも可能にできる)

小規模な自治体でも無理なく導入できる点が魅力



クラウドの強み：災害や緊急事態に対応しやすい

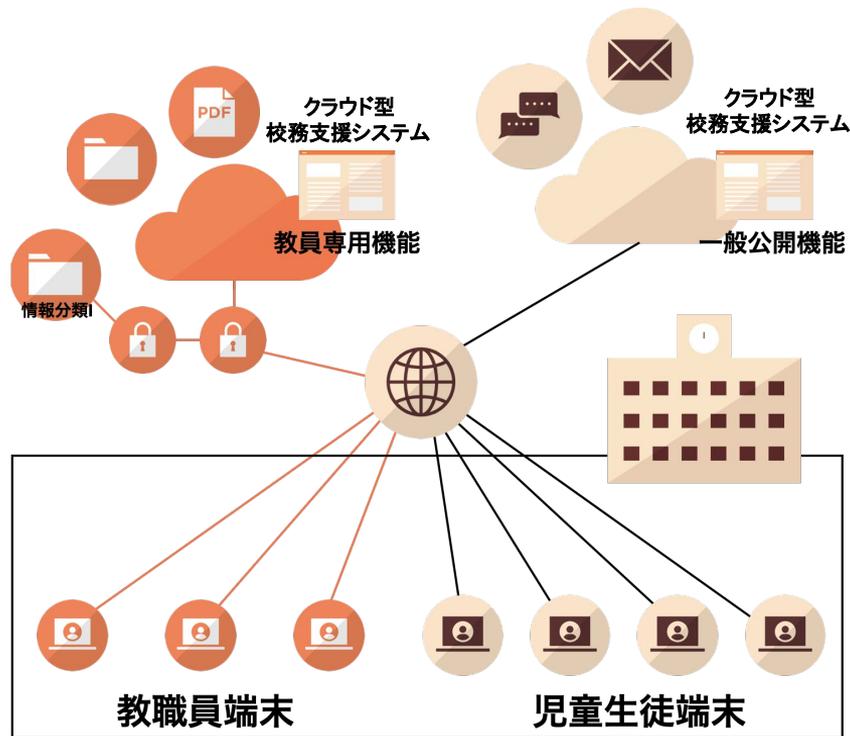
- ・災害時や感染症による休校時 や、学校外での事故やトラブル発生時 に、必要に応じて校外から(許可された端末 / アカウント経由での)校務支援システムへのアクセスが可能
※次項に詳細あり
- ・出張中など、校外でも管理職による児童生徒の登校状況・各種日誌等の確認が可能に
- ・電話やメール等を使わずに、BLEND内の連絡ツールから迅速に校内へ指示が出せる
- ・全ての操作ログが残るので、教職員の対応状況も把握できる



学校の「BCP対応能力」が飛躍的に向上



機能ごとのアクセス権限管理



校外から使える機能/アクセス可能なアカウントを「機能別」に管理者が変更できる

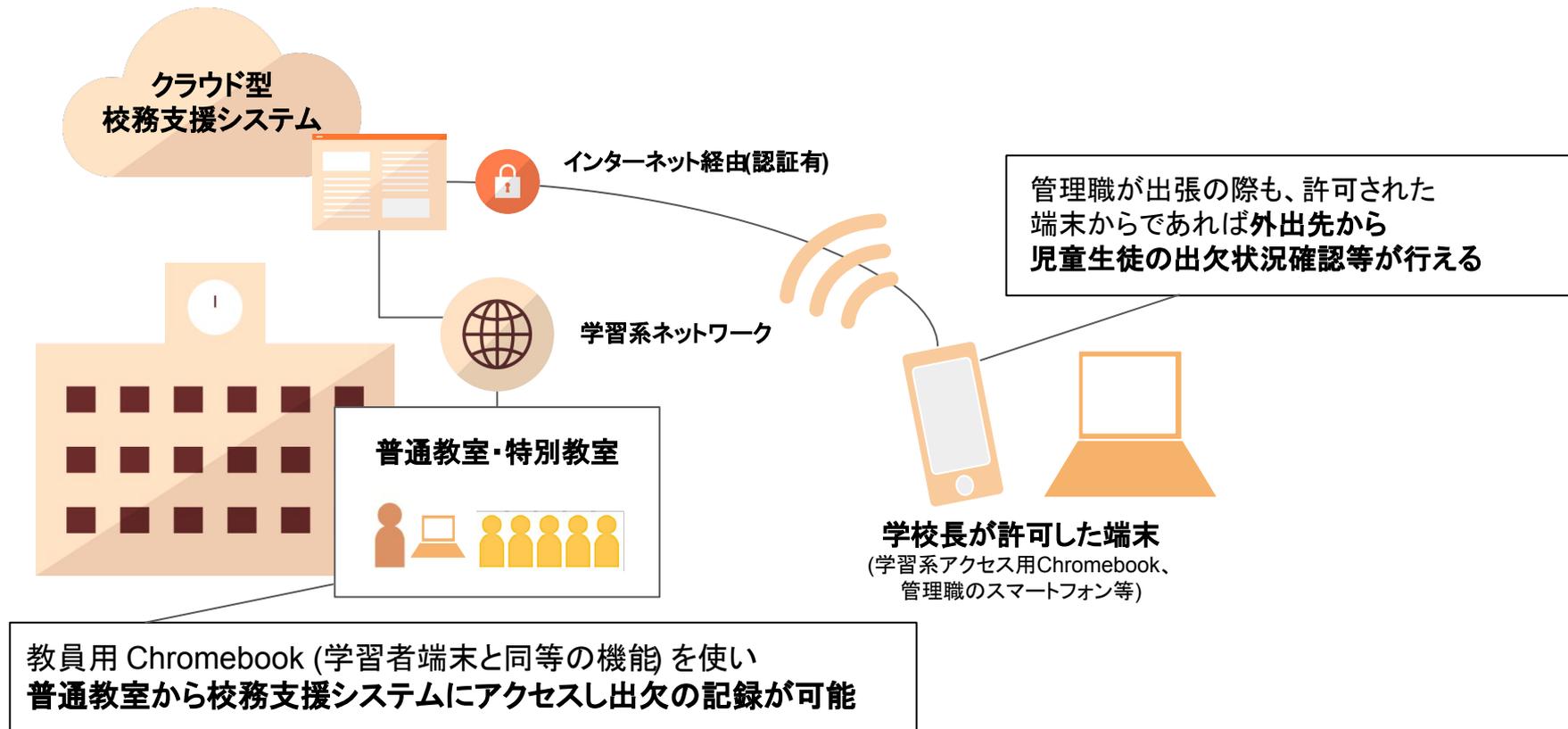
- ・重要機密を扱う機能は厳しいアクセス制御を実施
- ・一方で保護者や児童生徒に一部情報を公開し
学校と家庭との情報連携を円滑にする事が可能

例1) 情報分類Ⅰを扱う事が多い保健関係の情報は
保健室のみ / 2段階認証有 / 特定アカウントのみに制限

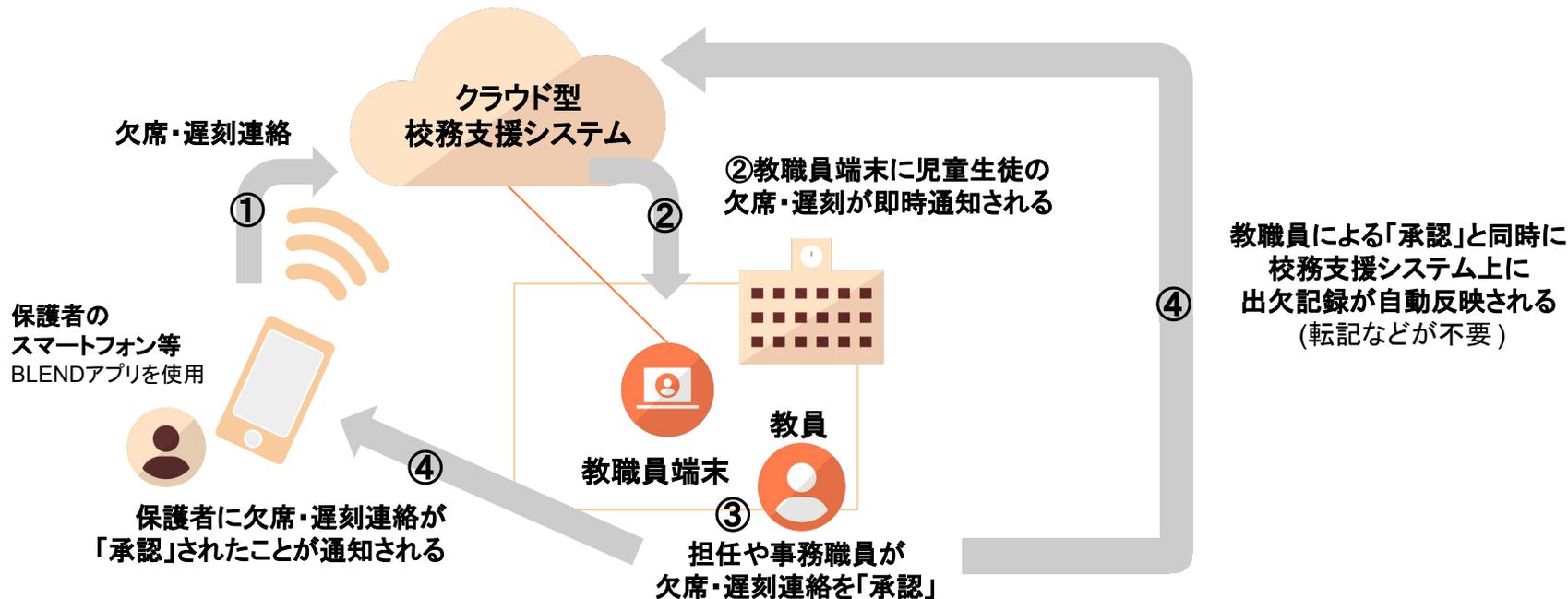
例2) 出欠情報の登録は普通教室からも行いたいのので
校内 / 教職員アカウントであれば入力可能にする

例3) 感染症拡大で休校、一部教員が自宅待機状態に
出欠・日誌などの機能の「校内のみ利用」の制限を解除
→緊急時のBCP対応を**必要な時だけ**利用可能

大子町で利用している校務のクラウド化事例 (1)

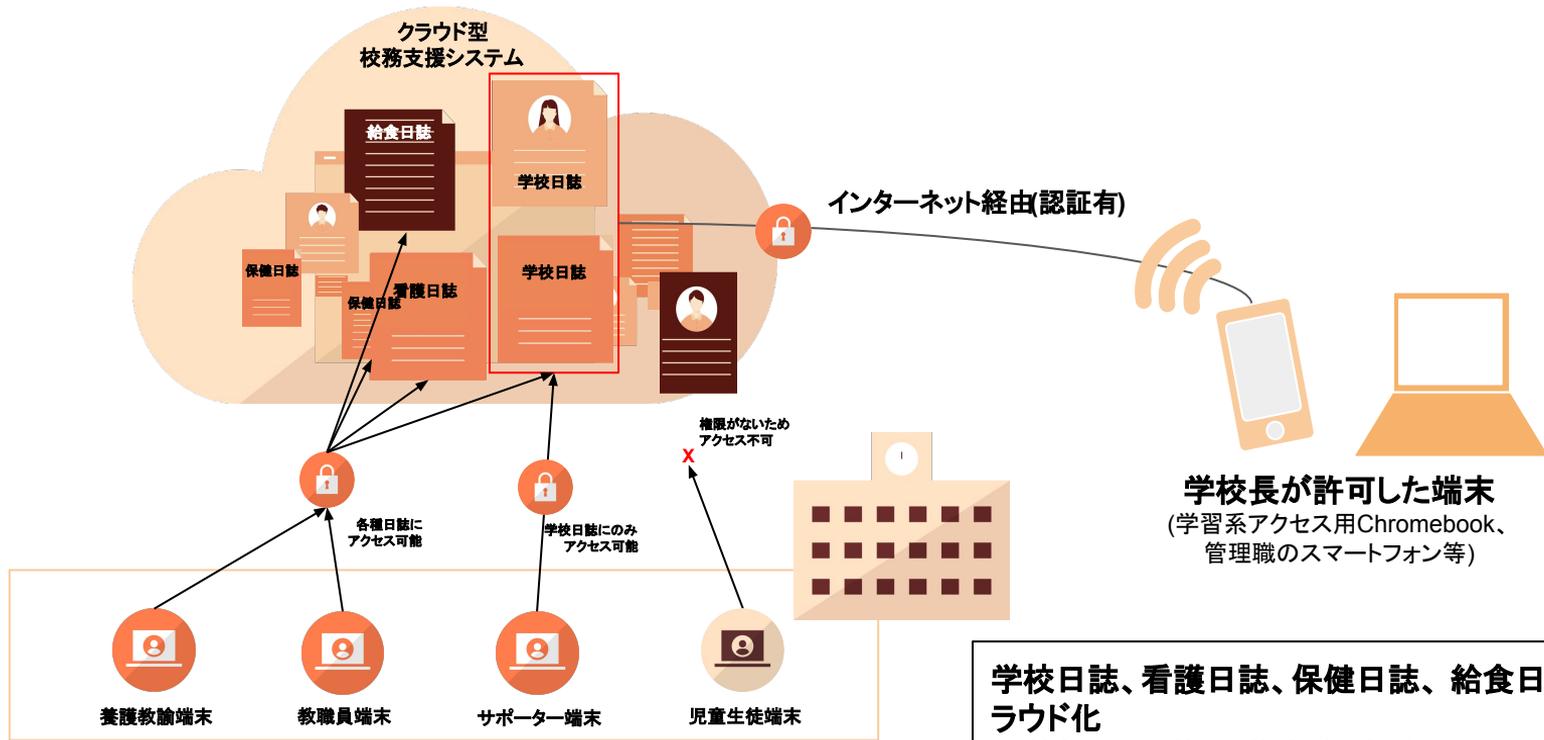


大子町で利用している校務のクラウド化事例 (2)



保護者はスマホアプリから欠席・遅刻連絡や健康調査結果体温等を学校に連絡できる
 学校は「承認」するだけで、担任や授業担当の出欠簿への記録と保護者への承認連絡が 同時に行える

大子町で利用している校務のクラウド化事例 (3)



学校日誌、看護日誌、保健日誌、給食日誌等をクラウド化
 ※情報を一元管理・蓄積ができ、個々にアクセスできる教職員を限定できる。

教職員の負担軽減の観点から期待される効果

【効果1:職員室に縛られない校務遂行体制の構築(事例1)】

校務/教務を校内どこでも実施可能に → 職員室に戻らなくても多くの校務が可能に

【効果2:保護者とのスムーズな情報共有による教職員・保護者の負担軽減】

保護者・学校間の連絡を保護者の「スマホアプリ」から行える

- 健康観察(検温報告)や出欠・遅刻連絡をアプリから申告 → 教職員の朝の電話対応負荷を軽減(事例2)
- 学校便り/担任からのお知らせを保護者アプリへ配信 (配信日時予約も可能)
- 「プール学習参加許可」申告も可能 ※児童の水泳カード持参忘れによるプール学習見学扱いを防ぐ
- アンケートを保護者アプリに配信可能、回答内容はリアルタイムに集計される
 - 未回答者の抽出と「再通知」も可能
 - 参観の参加意向確認、家庭訪問希望、家庭環境調査 等を今後BLENDで実施予定

※学校・教職員対象のアンケートも同様に実施できるため、

学校実態調査、学校評価アンケート、教員のICT活用指導力アンケート 等を今後BLEND上で実施予定

【効果3:情報の一元管理と、児童生徒/保護者への部分開示が可能に】

情報の一元管理・蓄積が可能に → 転記作業等に係る教職員の負担が軽減(事例3)

さらに蓄積された情報を部分的に保護者や児童生徒に開示可能

- 例)健康診断結果の保護者向け開示、確定した成績の児童生徒/保護者向け開示

【効果4:ペーパーレス化の推進】

紙、トナー・インク代のかなりの軽減が見込める

今後の展望:「クラウド間でのデータ連携」の実現へ

- ・大子町ではWorkspaceの上位プランである Education Plus を導入済
Google Workspace for Education PlusのQuery機能によって子どもたちの学習過程・成果を分析し
これまで見えなかった児童生徒の努力を可視化 し、三観点評価に活かしていきたい
- ・フルクラウド型校務支援システム導入により、従来では難しかった学習系のクラウドサービスと
校務系のデータ連携についても、今後検討をしていきたいと考えている
- ・データ分析/データ連携によって得られた情報を、コミュニケーション機能や情報開示機能により
積極的に共有することで、より透明性が高く、より明確な説明責任を果たせる学校にしていきたい



教職員はもちろん、児童生徒や保護者もうれしい「クラウド活用」で
1人ひとりに寄り添う学校運営を進化させていきたいと思えます